

平成30年3月26日時点

## 地方学術会議 企画（案）

○現時点で企画案の提出があったのは2つの地区会議のみ（近畿、北海道）

### ・近畿地区会議

テーマ	伝統芸術と科学
企画趣旨（地方で開催する意義、地域の課題解決への貢献など）	<p>京都ではぐくまれた伝統芸術を未来の教育研究に活用できないか？</p> <p>境界を明確にする分割統治をベースとした西洋風問題解決法の限界を認識し、むしろ境界を生かす東洋風問題解決法を見つめなおし、世界に発信するようなきっかけを作りたい。</p>
計画の概要（開催時期、開催場所、参加者数、主な演題と演者等（予定））	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋科学の限界と東洋の果たす役割</li> <li>・日本伝統芸術と科学</li> <li>・パネル討論</li> </ul>
地方の若い世代の参画策	融合分野創造におけるアートの果たす役割
補足	演者（予定）への打診等を行われておりません。

## ・北海道地区

<p>テーマ</p>	<p>北海道の科学と地域創生——まち、ひと、しごと（仮題）</p>
<p>企画趣旨（地方で開催する意義、地域の課題解決への貢献など）</p>	<p>北海道地区会議は、6名の会員と57名の連携会員から構成されている。この中から、12名の委員により、運営協議会を組織している。地区会議は、これまで、地域住民への広報活動を行うことと、北海道地区の多様な領域の科学者の連携を実現するために、2つの事業、すなわち、学術講演会（科学者との懇談会も開催）とサイエンスカフェを行ってきた（それぞれ、年一回、別時期に開催してきた）。</p> <p>今回、日本学術会議の方針である、地域での活動強化の方針に従って、上記とは別に、「地方学術会議」を設置し、会員・連携会員の連携を強化するとともに、一般市民・住民との情報共有を推進していくこととする。</p> <p>今回の日本学術会議の「地方学術会議」創設の主旨である</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域の課題解決への貢献</li> <li>2) 地方の若い世代への働きかけ</li> <li>3) 日本学術会議が行う提言等の改善（より地域の実態を踏まえた的確かつ社会的必要性の高いものにする）</li> </ol> <p>を実現するために「北海道地方学術会議」を開催する。</p> <p>なお、従来の地区会議とこの「北海道地方学術会議」の関係性については、学術会議の意向を十分に確認した上で、現在の地区会議の運営会議の委員で第一回目の会議において審議する予定である。</p> <p>※参考 まち・ひと・しごと創生総合戦略（2017改訂版）（平成29年12月22日閣議決定） <a href="https://www.kantei.go.jp/jp/headline/chihou_sousei/">https://www.kantei.go.jp/jp/headline/chihou_sousei/</a></p>
<p>計画の概要（開催時期、開催場所、参加者数、主な演題と演者等（予定））</p>	<p>開催時期は2019年（平成31年）1－3月を予定する。（従来、開催してきた学術講演会が、平成30年9月から11月をめどに開催予定であり、その後の開催を予定）</p> <p>開催場所、参加者、主な演題と演者については、地区運営会議で検討して、5月末を目途に起案するが、費用面から、大学などの公的施設を利用し、参加者は、従来の学術講演会規模の100名前後、演者は各部会一名をめどとして、計3名程度を想定している。</p>
<p>地方の若い世代の参画策</p>	<p>地方学術会議は、第一回目であり、まず、北海道地区の会員と連携会員が集まり、今後の地方学術会議のあり方、活動方針について、審議することを第一の目的とする。審議の後、「若手科学者の研究発表」の機会を設ける。これは、一般市民公開とし、発表内容も、中高校生や大学生、若い研究者が共通して興味を持てる内容とする。また、多くの若い世代の参画のため、予算の範囲内で、広く広報活動を行う。</p>
<p>補足</p>	<p>十分な議論をする時間的な余裕がなかったため、具体的な演者はこれから決定予定。</p>